

あきる野市ゆかりの凄い人

女性の活躍が進む現代ですが、女性の社会的地位や権利は、長い間なかなか認められませんでした。しかし、明治時代から昭和初期にかけて、医療分野の第一線に立ち、世界で活躍したあきる野市出身の女性がいます。日本人で初めてナイチンゲール記章を受賞した萩原タケ。彼女の情熱や活躍は、現代女性へのエールにとどまらず、コロナ時代を生きる私たちが学ぶべきものだと思います。

日本のナイチンゲール 萩原タケ

萩原タケは明治6年（1873年）当時の神奈川県多摩郡五日市村中下宿（現在のあきる野市五日市）に生まれ、明治11年（1878年）5歳の時、勸能学校に入学しました。読書にはげみ、裁縫も得意で5人の弟たちの子守もしながら優等賞を受賞するほど優秀でした。向上心強いタケは「女学雑誌」の通信教育を受講し、明治24年に通信文学部を無事に修了しました。その後、18歳で上京し、両国矢ノ倉の産婆学校に入学するも通学や学費等が大変で、1年も通わず退学し帰郷しました。

看護の道へ

明治25年9月の日本赤十字社の看護婦生募集を10月に気づいたタケは、看護婦の夢を諦められず、日本赤十字社に中途入学の嘆願書を提出しました。残念ながら、嘆願書は認められませんでした。明治26年20歳の春、日本赤十字社に第7回生として入学を果たしました。「全国の看護婦の模範となる核となるべき」という言葉を胸に日々勉学に励みました。しかし、明治27年に日清戦争が勃発すると、翌年からは教育中の看護婦も戦傷病者の介護に従事することになりました。

動作が機敏で手先も器用、しかも心配りもできるタケは、患者からも医師からも信頼され、明治29年（1896年）6月の三陸大津波では災害派遣班に選ばれました。その後も日本赤十字社が行った救護活動などには必ず選ばれ、明治33年（1900年）、当時27歳の北清事変では

病院船「弘済丸」の看護婦長となりました。救護者の中にはフランス兵をはじめとする外国人も含まれていました。この時の献身的な看護により、タケは、フランス政府から「オフィシエール・ド・アカデミー記章」を贈られました。

その後明治36年（1903年、当時30歳）に、タケは日本赤十字社の看護婦副取締役となり、全看護婦を統括するとともに、生徒の育成に当たりました。

海外生活へ

明治40年（1907年、当時34歳）の時、タケは伏見宮家・山内侯爵夫人のパリ行きに際し、健康管理のため随行し、随行終了後も1人でパリに残り、約2年間ヨーロッパで生活しました。その間、タケは国際看護婦協会（ICN）ロンドン大会への出席など国際的な活動を送り、帰国後は日本赤十字病院に復帰するとともに、国際看護婦協会名誉副会長に推薦され、明

治43年（1910年）には日本赤十字病院の看護婦監督に就任しました。その後も経験を生かし、いくつもの国際会議等で活躍しました。

その後のタケ

大正9年（1920年）、数々の功績が認められ、タケは第1回フーレンス・ナイチンゲール記章を日本人として初めて受賞しました。また、同年に日本赤十字社がシベリアのポーランド孤児を救出した際には、ウラジオストック経由で日本に渡った孤児の介護を指揮しました。

その後、50歳を迎えたタケは、持病の喘息が悪化し、体力の衰えが目立つようになりました。が、国内外で活動を続け、その名声はますます高まり、働く婦人のシンボルとして、またキャリアウーマンの先駆者として、尊敬を一身に受けていました。

看護婦監督の就任から昭和11年に63歳で死去するまでの28年間、タケは2700人あまりの看護婦の養成・指導に当たり、長年にわたり看護の世界に貢献しました。

ポーランド孤児救済100周年 タケが携わった命の物語

大正8年（1919年）ロシア革命後の内戦が続く中、シベリアで暮らしていたポーランド人は数十万人いたと言われています。親と死別した多くの子どもたちは、飢えと寒さの中、過酷な生活を送っていました。日本はこの年、シベリアに出兵、各国軍隊の撤退後もシベリアに残り、ウラジオストックに日赤病院を建設していました。

ポーランド救済委員会の要請を受けた日本政府は、日本赤十字社に依頼し、直ぐに受入れ体制を整え、軍の協力を得て救済活動に入りました。大正9年（1920年）から大正11年（1922年）にかけて、2次8回にわたり、765人のポーランド孤児を救済しました。こ

れは、日本赤十字社が初めて行った外国人難民支援活動でした。第1次の孤児たち375人は、軍の輸送船で5回に分けて敦賀港に入港。列車で上京して日赤本社病院と近接する福田会育児所に収容されました。日本赤十字社看護婦監督のタケは、孤児たちへの懸命の看護を指揮していました。約1年間の滞在後、横浜からアメリカ経由で全員無事にポーランドに帰国しました。

日本赤十字社の赤十字情報プラザではポーランド孤児救済や、タケが受賞したナイチンゲール記章メダルなどタケに関する展示がされています。ゆかりの人を訪ねに、足を運んでみてはいかがでしょうか。

赤十字情報プラザ

- 所在地：港区芝大門1-1-3
- 日本赤十字社本社西館1階
- 開館日：月曜日から金曜日
- 開館時間：9時30分～17時
- 新型コロナウイルス感染症のため臨時休館中です。再開日については公式HP (<http://www.jrc.or.jp/plaza/>)をご確認ください。



明治33年当時のタケ（同方「日本赤十字社看護婦同好会発行より転載」）

クイズ Quiz

萩原タケの功績を知ってもらうために、市内のある場所に彼女の胸像が建てられています。その場所はどこでしょうか？
この胸像には「人道のため国家のため」というタケの言葉が記されています。今でもタケを憶び、胸像を訪れる人が後を絶ちません。
※答えはP8にあります。



昭和10年当時のタケ（同方「日本赤十字社看護婦同好会発行より転載」）